

# 調査結果と児童生徒を結び付けた 授業改善のための分析の視点②



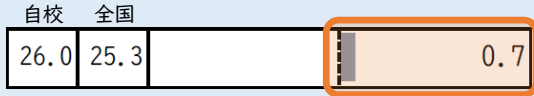
©県「ももっち・うらっちと仲間たち」

今号では、通信NO.8「調査結果と児童生徒を結び付けた授業改善のための分析の視点」に引き続き、**自校の児童生徒の実態に応じた授業改善を進めるための、分析の視点**の例を紹介します。全ての児童生徒が「分かった」「できた」を実感できる授業を行うための参考にしてください。



全国平均よりも高い数値が出た問題は課題がないと感じていませんか？

調査結果の分析ツールを使い、**全国平均正答率との差**に注目すると…



課題となっていたデータの活用の領域で、**全国平均よりも高い数値**が出ているぞ。

ただし、

調査結果の分析ツールを使い、**自校の平均正答率**に注目すると…



そもそも**正答率が30%より低い**なあ。改善のためにすべき課題ってなんだろう…



「全国平均正答率との差」だけに注目するのではなく、児童生徒が「どう間違っているのか」を確認することで、授業改善につながるヒントを得ることもできるね。まずは、解答類型から児童生徒のつまづきを分析してみましょう。

県調査における解答類型は、各校に届いている結果分析データの「⑤誤答分析シート」に詳細に示されています。

「⑤誤答分析シート」には、下のような表があります。

14.7	26.0	34.4	5.8	12.7
------	------	------	-----	------

この表では、黒塗白抜き文字が正答、ピンク囲みは再頻出値を表しています。

逆転・分散

表には、「逆転・分散」のような言葉が記載されている場合もあります。この設問では、正答の選択肢と誤答の選択肢の反応率が「逆転」していることと、正答以外の誤答の反応率が高く、均一に「分散」していることが分かります。

全国平均正答率よりも自校の平均正答率は高かったけれど、児童生徒の解答類型に注目すると課題の捉え方が変わるな。「逆転・分散」ということは、そもそも問題の意味が分からず当てずっぽうで答えた可能性も考えられるし、**問題内の用語の意味が分からなかったのかも**しれないな。

これまで類似問題はできていたから、**理解が十分でないまま作業として答えを求めていたことが原因かも**…。解答類型を基に**児童生徒のつまづきを確認することから始めて**、指導の改善に生かそう！

※「逆転」「分散」などの用語については、「帳票の見方、使い方について」(P.20)を参照してください。



全国調査の結果も、県調査と同様に、解答類型に着目して分析することができます。解答が「逆転」していたり、「分散」していたりする設問に着目し、誤答が多くなった要因を考え、授業改善の視点を明確にしましょう。

## 【正答より誤答の出現率が高かった設問】

年生の	設問番号	設問の概要